

# 自動車・同部品・タイヤ

## 1. 評価対象企業（20社）

トヨタ紡織、横浜ゴム、ブリヂストン、住友ゴム工業、豊田自動織機、デンソー、スタンレー電気（新規）、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、NOK、アイシン精機、マツダ、本田技研工業、スズキ、SUBARU、ヤマハ発動機、小糸製作所（新規）、豊田合成

（証券コード協議会銘柄コード順）

## 2. 評価方法

### (1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	6	29
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	22
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	19
計		20	100

(注) 評価項目の内容および配点は 69 頁参照

### (2) 評価実施アナリストは 34 名（所属先 23 社）である。（70 頁参照）

## 3. 評価結果

### (1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（68 頁）参照）

- ① 本年度は、**経営陣の IR 姿勢等**ほか 4 分野において、項目の新設、削除、内容変更、配点変更または内容・配点変更を行い、評価を実施した。また、評価対象企業の変更（新規、休止）もある。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 68.0 点（昨年度 70.0 点）、総合評価点の標準偏差は 8.5 点（昨年度 6.6 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を比較すると、高得点順に、自動車メーカー（9 社：いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、マツダ、本田技研工業、スズキ、SUBARU、ヤマハ発動機）71.1 点（昨年度 72.7 点）、タイヤメーカー（3 社：横浜ゴム、ブリヂストン、住友ゴム工業）68.7 点（昨年度 67.0 点）、自動車部品メーカー（8 社：トヨタ紡織、豊田自動織機、デンソー、スタンレー電気、NOK、アイシン精機、小糸製作所、豊田合成）64.2 点（昨年度 66.9 点）となり、タイヤメーカーを除き、昨年度を下回った。また、自動車メーカーが他の業態を上回ることに変わりはない。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 72%（昨年度 70%）、**説明会等**が 72%（昨年度同率）、**フェア・ディスクロージャー**が 83%（昨年度 87%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 59%（昨年度 63%）、**自主的情報開示**が 61%（昨年度 65%）となった。なお、**コーポレート・ガバナンス関連**および**自主的情報開示**が他の分野に比べ、低水準にとどまった。
- ④ 評価項目について見ると、次の 4 項目は平均得点率が 80%以上となり、高水準となった。

- (a) 「ウェブサイトにて、過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報・決算説明会の配布資料が十分に掲載されていますか」(平均得点率 95%) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)): 100% 16 社・90% 1 社)
- (b) 「社長または CEO が会社主催の説明会 (テレフォンカンファレンスを含む) に必要に応じて適宜出席していますか」(新設) (平均得点率 91%) (得点率: 100% 6 社・90% 台 12 社)
- (c) 「ウェブサイトや説明会資料等の英語対応がなされていますか」(平均得点率 88%) (得点率: 100% 15 社)
- (d) 「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」(平均得点率 86%) (得点率: 90% 4 社・80% 台 15 社)
- ⑤ 一方、次の 3 項目は平均得点率が 50% 台となり、低水準となった。
- (e) 「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか」(平均得点率 51%) (得点率: 30% 未満 3 社・30% 台 3 社・40% 台 3 社)
- (f) 「中・長期経営計画 (例えば、営業利益率、ROE 等) を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的な方策が、十分に説明されていますか」(平均得点率 58%) (得点率: 30% 台 3 社・40% 台 2 社・50% 台 5 社)
- (g) 「資本政策および配当政策・自社株買いなどの株主還元策の考え方を十分に説明していますか」(平均得点率 58%) (得点率: 30% 台 2 社・40% 台 2 社・50% 台 9 社)
- ⑥ なお、本年度新設した下記の項目は、次のとおりとなった。
- ・ 「社長または CEO が会社主催の説明会 (テレフォンカンファレンスを含む) に必要に応じて適宜出席していますか」(平均得点率 91%) (得点率: 100% 6 社・90% 台 12 社) (上記④(b)参照)

## (2) 上位 3 企業の評価概要

### 第 1 位 SUBARU (ディスクロージャー優良企業 [6 回連続 6 回目]、総合評価点 79.9 点 [昨年度比+0.9 点])

- ① 同社は、説明会等 (得点率 (以下省略) 83%)、コーポレート・ガバナンス関連 (73%) が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位 (96%)、経営陣の IR 姿勢等が第 3 位 (81%)、自主的情報開示が第 4 位 (75%) となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「全体としての経営陣の IR 姿勢 (経営トップの参加、IR の重要性の認識、十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等)」および「社長または CEO が会社主催の説明会 (テレフォンカンファレンスを含む) に必要に応じて出席していること」が共に同得点第 1 位となった。また、「IR 部門への十分かつ正確な情報の集積度、アクセスの容易性、IR 部門以外へのアレンジ機能が十分であること」が高い評価となったことに加え、「アナリストが要望する情報提供、担当者との有益なディスカッションの実施、IR 改善の努力が十分であること」が同得点第 1 位となった。なお、取材で得られる詳細な利益増減内訳の簡素化など、情報量が後退したとの声や、中長期の展望や注力すべき点などで経営陣とのディスカッションが十分にできなくなったとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるよう十分に説明されていること」および「質疑に対する会社側の回答が十分満足できること」が最も高い評価となった。また、説明資料等において、「連結の実績および計画ベースの利益増減要因が、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていること」が同得点第 1 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」が同得点第 1 位となったほか、「ウェブサイトにて、過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報・決算説明会の配布資料が十分に掲載されていること」、「ウェブサイトや説明会資料等の英語対応」および「説明会のリプレイは、説明会終了後、電話やウェブキャストで視聴等できること」が共に満点評価となった。これらの結果、この分野において同得点第 1 位の評価となった。なお、一部の決算説明会資料がウェブサイトに掲載されていないとの声が寄せられた。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況

を含め十分に説明されていること」、「中・長期経営計画（例えば、営業利益率、ROE等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること」、「資本政策および配当政策・自社株買いなどの株主還元策の考え方を十分説明していること」が共に評価された。これらの結果、この分野において第1位の評価となった。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」が第4位となった。また、「E-mailを利用して公開情報の提供を適切に行っていること」が評価された。なお、群馬工場見学会を評価する声がある一方、定期的な米国事業の説明会を要望する声も寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

## 第2位 豊田合成（総合評価点 78.7点 [昨年度比+4.6点]、昨年度第6位）

- ① 同社は、**経営陣のIR姿勢等**が第1位（83%）、**説明会等**が第2位（81%）、**自主的情報開示**が第3位（79%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が第7位（64%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第9位（94%）となった。昨年度に比べ、全ての分野の得点率が改善し、総合評価点および順位の上昇（総合評価点の上昇幅第1位、順位の上昇幅同点第2位）につながった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「全体としての経営陣のIR姿勢（経営トップの参加、IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等）」が同得点第1位となったことに加え、「社長またはCEOが会社主催の説明会（テレフォンカンファレンスを含む）に必要な応じて出席していること」が評価された。また、「IR部門への十分かつ正確な情報の集積度、アクセスの容易性、IR部門以外へのアレンジ機能が十分であること」および「アナリストが要望する情報提供、担当者との有益なディスカッションの実施、IR改善の努力が十分であること」が共に同得点第1位となった。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入の趣旨を十分理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が最も高く評価されたほか、「非財務情報（統合報告書、ファクトブック、ESG情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が評価された。これらの結果、この分野において第1位の評価となった。これに関し、IR活動の変化（ディスクロージャーの質・量の充実）を評価する声や、経営陣や工場へのアクセス増加に対する取組が積極的との声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるよう十分に説明されていること」および「質疑に対する会社側の回答が十分満足できること」が共に評価された。また、説明資料等において、「連結の事業種類別および地域別セグメント情報が実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていること」および「連結の実績および計画ベースの利益増減要因が、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていること」が共に最も高い評価となった。これに関し、開示資料での所在地別増減要因分析が有益との声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」が評価された。また、「ウェブサイトや説明会資料等の英語対応」および「説明会のリプレイは、説明会終了後、電話やウェブキャストで視聴等できること」が共に満点評価となった。
- ⑤ **自主的情報開示**においては、「ウェブサイト、TDnet等では有用な情報がタイムリーかつ積極的に開示されていること」が高い評価となった。また、「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」も評価された。これに関し、技術説明会を評価する声や、高頻度の非財務情報の開示を評価する声が寄せられた。

## 第3位 デンソー（総合評価点 77.4点 [昨年度比+1.7点]、昨年度第5位）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が同得点第1位（81%）、**経営陣のIR姿勢等**が第2位（81%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が第3位（69%）、**説明会等**が第6位（75%）、**フェア・ディスクロージャー**が第14位（83%）となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「全体としての経営陣のIR姿勢（経営トップの参加、IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等）」が評価されたことに加え、「社長またはCEOが会社主催の説明会（テレフォンカンファレンスを含む）に必要な応じて出席していること」が評価された。ま

た、「IR 部門への十分かつ正確な情報の集積度、アクセスの容易性、IR 部門以外へのアレンジ機能が十分であること」および「アナリストが要望する情報提供、担当者との有益なディスカッションの実施、IR 改善の努力が十分であること」が共に評価された。さらに、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入の趣旨を十分理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が評価されたことに加え、「非財務情報（統合報告書、ファクトブック、ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が最も高い評価となった。

- ③ **説明会等**においては、説明資料等において、「連結の事業種類別および地域別セグメント情報が実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていること」が高く評価されたほか、「連結の実績および計画ベースの利益増減要因が、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていること」も評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」については改善を望む声があった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明されていること」が評価された。なお、株式持ち合いの説明が不十分との声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「ウェブサイト、TDnet 等で有用な情報がタイムリーかつ積極的に開示されていること」が評価された。また、「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」が最も高く評価された。これに関し、デンソーダイアログデー（事業説明会）、中国事業説明会や工場見学会等を評価する声があった。さらに、「E-mail を利用して公開情報の提供を適切に行っていること」も評価された。これらの結果、この分野において同得点第 1 位の評価となった。

以 上

## 2019年度 ディスクロージャー評価比較総括表（自動車・同部品・タイヤ）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス の基本スタンス 評価項目6 (配点29点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における 開示 評価項目4 (配点20点)		3. フェア・ディスクロージャー ロージヤ 評価項目4 (配点10点)		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目3 (配点22点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3 (配点19点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	7270 SUBARU	79.9	23.4	3	16.6	1	9.6	1	16.1	1	14.2	4	1
2	7282 豊田合成	78.7	24.2	1	16.1	2	9.4	9	14.0	7	15.0	3	6
3	6902 デンソー	77.4	23.6	2	15.0	6	8.3	14	15.1	3	15.4	1	5
4	7272 ヤマハ発動機	74.6	22.7	5	14.5	10	9.5	4	15.3	2	12.6	9	4
5	7211 三菱自動車工業	74.0	22.2	6	15.1	4	9.5	4	13.8	8	13.4	6	2
6	7203 トヨタ自動車	73.3	21.0	10	14.8	7	9.6	1	12.5	11	15.4	1	8
7	5108 ブリヂストン	72.8	21.2	9	13.5	15	9.6	1	14.9	4	13.6	5	11
8	7261 マツダ	72.6	22.2	6	14.7	8	9.5	4	14.3	6	11.9	12	7
9	6201 豊田自動織機	72.3	23.1	4	15.2	3	8.5	11	12.2	15	13.3	7	12
10	7202 いすゞ自動車	69.1	20.5	13	14.1	14	8.4	12	14.4	5	11.7	13	15
11	7259 アイシン精機	68.1	20.9	11	14.7	8	7.4	15	12.4	13	12.7	8	14
12	7267 本田技研工業	68.0	21.4	8	14.4	12	9.4	9	10.8	18	12.0	11	10
13	5110 住友ゴム工業	66.8	20.2	15	14.5	10	9.5	4	11.8	17	10.8	14	13
14	5101 横浜ゴム	66.5	20.3	14	15.1	4	5.6	19	13.4	9	12.1	10	17
15	7269 スズキ	66.4	20.8	12	13.5	15	9.5	4	12.2	15	10.4	15	9
16	7205 日野自動車	62.1	18.4	18	12.9	18	8.4	12	12.5	11	9.9	16	16
17	3116 トヨタ紡織	60.0	19.3	16	13.3	17	7.4	15	12.3	14	7.7	17	18
18	7240 NOK	55.0	19.0	17	14.2	13	6.0	17	9.4	19	6.4	19	19
19	7276 小糸製作所	52.1	17.5	19	12.9	18	6.0	17	8.1	20	7.6	18	未実施
20	6923 スタンレー電気	50.0	15.0	20	11.7	20	4.7	20	13.2	10	5.4	20	未実施
	評価対象企業評価平均点	68.03	20.86		14.35		8.29		12.95		11.58		

2019年度 評価項目および配点(自動車・同部品・タイヤ)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (29点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどのように評価しますか。(経営トップの参加、IRの重要性の認識、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積への支援等)	10
②社長またはCEOが会社主催の説明会(テレフォンカンファレンスを含む)に必要な応じて適宜出席していますか。	2
(2)IR部門の機能	
①IR部門への十分かつ正確な情報の集積度、アクセスの容易性、IR部門以外へのアレンジ機能は十分ですか。	4
②アナリストが要望する情報提供、担当者との有益なディスカッションの実施、IR改善の努力は十分ですか。	4
(3)IRの基本スタンス	
①フェア・ディスクロージャー・ルールの導入の趣旨を十分理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。	4
②非財務情報(統合報告書、ファクトブック、ESG情報等)の開示に積極的に取り組んでいますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (20点)	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	8
②質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものですか。	8
(2)説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示	
①連結の事業種類別および地域別セグメント情報は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	2
②連結の実績および計画ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、十分に記載されていますか。	2
3. フェア・ディスクロージャー (10点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	4
(2)ウェブサイトににおける情報提供	
・ウェブサイトに、過去の長期財務データ等、当該企業を分析するために必要な基本的情報・決算説明会の配布資料が十分に掲載されていますか。	1
(3)外国人投資家向け情報提供	
・ウェブサイトや説明会資料等の英語対応がなされていますか。	2
(4)説明会のリプレイについて	
・説明会のリプレイは、説明会終了後電話やウェブキャストで視聴等ができますか。 [4回すべて視聴できる:3点 2回のみ視聴できる:2点 1回のみ視聴できる:1点 視聴できない:0点]	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (22点)	配点
(1)コーポレートガバナンス・コード	
・コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分な説明がなされていますか。	2
(2)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画(例えば、営業利益率、ROE等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	10
(3)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策および配当政策・自社株買いなどの株主還元策の考え方を十分に説明していますか。	10
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (19点)	配点
①ウェブサイト、TDnet等で有用な情報(注)がタイムリーかつ積極的に開示されていますか。	6
②工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。 [過去1年間を目安に評価]	10
③E-mailを利用して公開情報の提供を適切に行っていますか。	3

(注) 有用な情報については、【業態】毎に、  
 【自動車メーカー】:地域別小売台数、輸出台数、生産台数等(月次情報・四半期情報)  
 【同部品メーカー】:ユーザー別および製品別売上高等(四半期情報)  
 【タイヤメーカー】:地域別の本数出荷、新車・市販の内訳等(四半期情報)。

自動車・同部品・タイヤ専門部会委員

部会長	北山 信次	明治安田アセットマネジメント
部会長代理	箱守 英治	大和証券
	岩井 徹	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
	楯本 将隆	野村証券
	坂口 大陸	みずほ証券
	高橋 耕平	UBS 証券
	吉田 有史	シティグループ証券

評価実施アナリスト（34名）

秋田 昌洋	クレディ・スイス証券	杉浦 誠司	東海東京調査センター
安藤 広樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	杉本 浩一	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
岩井 徹	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	大門 明子	三菱 UFJ 信託銀行
江口 由紀	野村アセットマネジメント	高田 悟	ティー・アイ・ダウリュ
大畑 友紀	みずほ証券	高橋 耕平	UBS 証券
大牧 実慶	立花証券	竹内 克弥	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	田中 健司	アセットマネジメント One
小掠 剛	岡三証券	成瀬 伸弥	岡三証券
垣内 真司	モルガン・スタンレー MUFG 証券	萩原 学	シティグループ証券
岸本 章	JP モルガン証券	箱守 英治	大和証券
北山 信次	明治安田アセットマネジメント	長谷川 義人	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
楯本 将隆	野村証券	花井 美穂	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	広川 孝一	JP モルガン・アセット・マネジメント
小西 慶祐	QUICK	持田 浩晃	丸三証券
坂口 大陸	みずほ証券	八木 啓行	富国生命投資顧問
坂牧 史郎	大和証券	山岡 久紘	野村証券
菅原 繁男	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント	吉田 有史	シティグループ証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。